

「こんなになるといいな」の役割分担を検討しました

前回出された、日の里が「こんなになるといいな」というアイデアについて、行政、住民どちらが主体となって進めるべきか、各グループで検討した結果を下の表に整理しています。内容が多くて全て書き込めませんでした。各グループの主な意見を整理しています。

グループ名	住民が主体になるもの	行政が主体になるもの
蓮池グループ	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ活動がさかんなまち 自治会加入の規約をつくる（住民は自治会、子ども会に加入しなければならない） 住民をコミュニティの組織づくりに組み込んでいく 	<ul style="list-style-type: none"> 行政との協働 小学校などの空教室を利用して老人、子どもの交流ができればよい
輝グループ	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの横のつながりをつくる機会（町内会単位で） スポーツのクラブ活動を増やす コミュニティ活動のキャンペーンをする 防犯活動をする 一人暮らしのお年寄りが集まる場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> お年寄り（1人暮らし）向けの集合住宅 ケアハウス、グループホームなど
コミセン酒場グループ	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアが活躍できるまち ボランティアは住民が主体 ボランティアの内容によって有償、無償がある（美化運動とか買い物お助け隊など中身が違う） 寄り合いホームがあつたらいい 男の自立大学があつたらいい 高齢者になった時に料理、掃除、洗濯などができる 男性となれるように訓練するところ 高齢者同士の助け合いを行う 自主防災システムをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの窓口が欲しい（買い物お助け隊など） 窓口は行政
いのししグループ	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ食堂の常設、独居高齢者など食事や飲酒 高齢者のライフライン 安心安全のまちづくり、防犯にもつながる住民同士の挨拶や声掛け 豊富な高齢者の人材の活用を、地域の方と学校が連携し子ども達へ教育を 人材ネットワークの充実、地域デモクラシー 地域密着型のビジネスを、サービスの担い手と受け手の中間的存在 コミュニティを中心に各専門分野で人材を募る 子育て支援、空き校舎などを利用してかつての経験者に協力してもらおう 先生、大工、趣味の達人、ひたすら子どもと遊んでくれる人などに協力してもらって、学校へ通えない子や遊び相手のいない子たちの受入れの場 	<ul style="list-style-type: none"> 行政との協働
アクション17グループ	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の日常の交通手段を考えて欲しい ボランティアタクシー 定刻ではなく、利用したい時間に利用できるように コミュニケーションのあるまち 各町内の集会所、自治公民館の活用 小中学校の空き教室の活用 おもちゃ病院、子育てサロンなど高齢者と子どもとのふれあいの場 活気のあるまちづくり 若い世代とお年寄りがふれあえるまち 福祉活動を活発にするボランティアを増やしていく 	<ul style="list-style-type: none"> タクシーへの補助 教室の提供 大型スーパーが欲しい

第3回ワークショップ風景は、容量の都合で省略しました。

ご意見・ご提案をお寄せ下さい

コミュニティ運営協議会では、今回のワークショップの様子をこの広報で逐次お伝えしていきます。

みなさんのまちづくりに関するご意見やご提案などありましたら、どしどし日の里コミュニティ・センターにお寄せ下さい。

